

新生児科

1. 目的と特徴

小児科の後期研修中に6ヶ月間、産婦人科の後期研修中に4ヶ月間、当科で研修を行い、小児科専門医・産婦人科専門医資格を取得する。小児科専門医取得後は新生児専門医の資格取得への経験を積むことが可能である。

2. 指導スタッフ

教授	長谷川久弥
准講師	山田洋輔
助教	溝上雅恵
助教	北村 怜
助教	和佐正紀
助教	池田健太
助教	平林将明
助教	鈴木俊彦

3. 研修施設

基幹施設：東京女子医科大学東医療センター新生児科

研修協力施設：東京女子医科大学東医療センター小児科、同産婦人科

4. 研修カリキュラム

A：一般目標

周産期医療における産科・新生児科相互の協力体制の重要性を理解すること、正常新生児のうちハイリスク児を初期対応から適切に対処できることを目標とする。研修後、自ら主体的に判断し、必要に応じて他科依頼・NICUに適切に搬送することができる。

B：行動目

標

- 1) 産科データおよび分娩記録から、ハイリスク児を認知して説明できる。
- 2) 出生時の児の評価ができる。
- 3) 出生体重1500g以上の蘇生ができる。予定帝王切開に原則として立ち会う。
- 4) 正常新生児の一般的養護、早産児・低出生体重児の保育の基本を習得する。
- 5) 新生児の感染防止のため、手洗いやガウンテクニックの習慣を身につける。
- 6) 新生児の院内感染の危険について認識し、予防措置をとることができる。
- 7) 新生児モニタ（呼吸心拍モニタ、パルスオキシメータ）の適切な使用ができる。
- 8) 新生児の採血手技、点滴手技を習得する。
- 9) 検査を適切に行い、その結果を自ら解釈できる。（ヘマトクリット測定、ビリルビン測定、CRP測定、血糖測定、血液ガス分析、マイクロバブルテスト、頭部超音波検査、心臓超音波検査、腎泌尿器系超音波検査、心電図、胸腹部X線像）
- 10) 新生児の搬送ができる。（搬送用保育器の取り扱い、搬送中の観察と治療）
- 11) 家族とくに母親に、新生児およびその後の育児一般について適切な助言指導が行える。
- 12) NICUスタッフと協力し、円滑な診療ができる。
- 13) カンファレンス、抄読会、学会などに参加して、討論する。

C：年次別研修スケジュールと研修内容概略

小児科研修中6ヶ月間・産婦人科研修中の4ヶ月間、当科にローテートし新生児管理を学ぶ。

D：週間予定

	午前	午後
月	カンファレンス・回診・診療	家族への説明・診療
火	カンファレンス・回診・診療・眼科診療	家族への説明・診療
水	カンファレンス・周産期カンファレンス・回診・診療・ナースとのカンファレンス	家族への説明・診療
木	カンファレンス・回診・診療	家族への説明・診療
金	カンファレンス・産科合同回診・診療	家族への説明・診療
土	カンファレンス・抄読会・回診・診療	

5. 後期臨床研修修了後の進路

後期臨床研修修了後、東京女子医大東医療センター新生児科の就職を希望するものは、東医療センター新生児科スタッフで協議のうえ、助教として採用が可能。

6. 学位

研究論文が掲載された後、教授・講座主任との協議のもと、医学博士の学位申請が可能である。

7. 専門医

周産期新生児専門医について、周産期新生児専門医の暫定指導施設として登録されている。

8. 問い合わせ先

〒116 - 8567 東京都荒川区西尾久2 - 1 - 10

東京女子医科大学東医療センター新生児科

医局長 山田洋輔

E-mail : yamada.yosuke@twmu.ac.jp

TEL : 03 - 3810 - 1111